株主優待制度について

2017年3月末時点の優待対象株主様のポイントの取得期限が迫っています。

2017年12月28日昼12時まで

必要な物

7月中旬に郵送した**「株主優待のご案内」**をご確認ください。

1 株主番号

2 クーポンコード

上記をご用意いただき、
「株主優待専用サイト」より
お受け取りください。

https://video.crank-in.net/shareholder

お受け取りになられた株主優待ポイントは、取得した月から12ヶ月後の末日までご利用いただけます。

株主優待の内容

クランクイン!ビデオ

映像配信サービス「クランクイン！ビデオ」においてご利用可能な株主優待ポイントを贈呈いたします。
また2018年3月末時点の株主優待内容を一部変更し、1,000株以上5,000株未満の株主優待ポイントを2,000ポイント、2,500ポイントにアップします。
さらに、対象サービスの新設・拡大なども現在検討中です。

		継続保有期間	
		1年未満	1年以上※1
保有株式数	1,000株以上 5,000株未満	(2017年度) 1,000ポイント ↓ (2018年度) 2,000ポイント	(2017年度) 1,500ポイント ↓ (2018年度) 2,500ポイント
	5,000株以上	4,000ポイント	6,000ポイント

※1. 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載され、かつ前年の3月31日および9月30日現在の当社株主名簿に連続して、同一株主番号で1,000株以上または、5,000株以上で記載された株主様といたします。
※2. 株主優待ポイントをご利用いただくためには、「クランクイン！ビデオ」の会員登録が必要となります。

コーポレートサイトのご案内

最新ニュースはもちろん、プレスリリース、投資家情報などを随時更新しています。また、個人・法人向けサービスやグループ会社サイトとリンクしていますので、必要な情報を素早く閲覧することができます。ぜひご活用ください。

http://www.broadmedia.co.jp/

ブロードメディア　検索

**さらに便利に。
スマートフォンでも
ご覧いただけます。**

当社ウェブサイトはスマートフォン・タブレットにも対応しています。外出時にも当社情報の入手が可能です。

ブロードメディア株式会社
〒107-0052　東京都港区赤坂8-4-14 青山タワープレイス6F

2017

The Second quarter business report

株主通信

第22期 第2四半期決算のご報告
2017.4.1 ➡ 2017.9.30

Broadmedia

ブロードメディア株式会社
証券コード:4347

CONTENTS

01　ブロードメディアグループの強み
02　トップインタビュー
07　トピックス
09　セグメント別の業績
11　四半期連結財務諸表（要約）
13　会社データ
14　株式データ

ブロードメディアグループの強み

「コンテンツの調達能力」 × 「コンテンツを安定的かつ高品質で配信する技術」

コンテンツの調達と配信技術の2つを併せ持つ独自性が強み

5つの事業分野が緊密に連携を取り、相互に協力しあうことで、「創造力が生み出す優れた作品やサービスを広く社会に普及させ、より豊かなコミュニティーの形成・発展に貢献する」という企業理念を推進しています。

5つの事業分野

コンテンツ

HOLLYWOOD CHANNEL / BMGC

放　送

釣りビジョン

スタジオ

bms

技　術

Broadmedia / BMGC / BMTi / Digital Cinema Club

ネットワーク営業

Broadmedia

個人向けサービス・法人向けサービス

さまざまなコンテンツを、独自性のある技術との組み合わせで、世の中のさまざまな端末に配信

トップインタビュー

収益力の改善と企業価値向上を一層強力に推進し、期末の黒字達成に向けて努力してまいります。

代表取締役社長　**橋 本　太 郎**

Q 今期の業績についてお聞かせください

今年度の上期は、目標として掲げた最終損益の黒字化や、中長期の取り組みを行いながら、まずまずの業績を実現できたと考えています。売上高は、「スタジオ」以外の全てのセグメントで増収となりました。営業利益は、「コンテンツ」のクラウドゲーム事業およびデジタルメディア事業(VOD)の損失を、大幅に改善することができました。企業規模の割にはビジネスラインが多いので、伸びるところもあれば相殺してしまうところもありますが、全体では増収増益を達成しました。経常利益は、昨年まで持分法適用会社であったGクラスタ・グローバル社を整理したことで持分法による投資損失が減少した影響もあり、大幅増益となりました。最終損益につきまし

ても、特別利益の計上やグループ再編の結果として税金費用や非支配株主利益が減少したことで、黒字化することができました。通期の数字も業績予想を上回るように、このまま努力を継続してまいります。

Q 経営課題の進捗について教えてください

約1年半前に新株予約権付社債を発行しましたが、この10月までに全ての転換が完了したことで、ある程度安定的な財務基盤を確立できました。

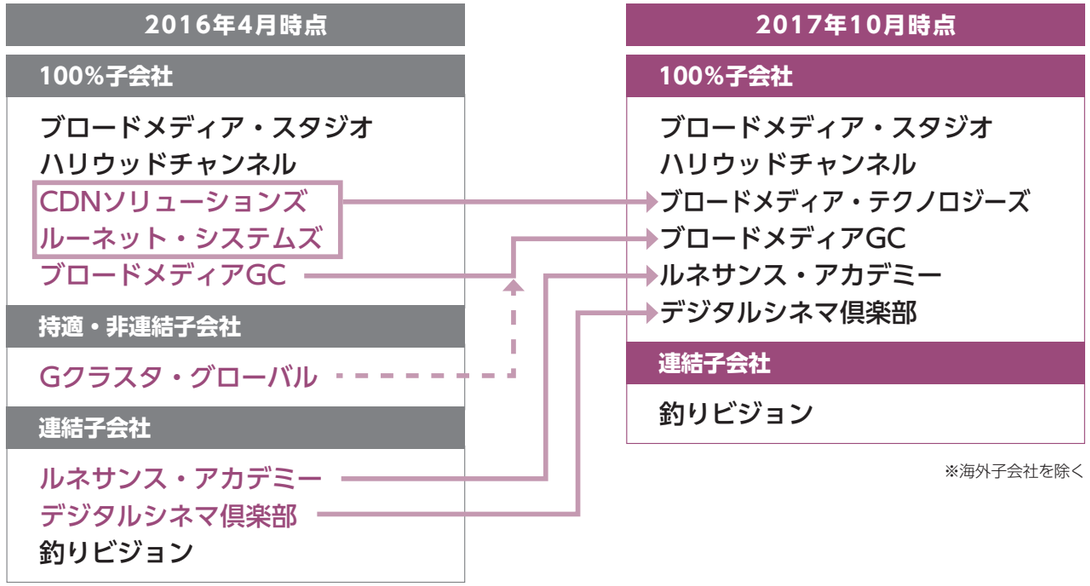
それと並行して、グループ経営体制の強化と収益力の向上を目指して、より効率的な体制の構築を進めてまいりました。その一環として、ブロードメディアGC社へのゲーム事業の集約や、ルネサンス・アカデミー社およびデジタルシネマ倶楽部社を100%子会社化し、また、CDNソリューションズ社とルーネット・システムズ社を合併し、商号をブロードメディア・テクノロジーズ社としました。これにより、多少分かりにくくなっていた資本構成や事業構造を整理することができました。

100%子会社化には、グループ経営の効率を

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2016年度 第2四半期	**2017年度 第2四半期**	増減額	2016年度 第2四半期	**2017年度 第2四半期**	増減額
コンテンツ	959	**1,020**	↗ 60	△172	**△37**	↗ 134
放　送	2,866	**3,015**	↗ 148	177	**127**	↘ △49
スタジオ	1,424	**1,178**	↘ △245	132	**12**	↘ △120
技　術	902	**1,108**	↗ 206	148	**188**	↗ 39
ネットワーク営業	335	**359**	↗ 24	6	**△11**	↘ △18
全社費用	—	**—**	—	△230	**△211**	↗ 18
合　計	6,487	**6,682**	↗ 195	62	**67**	↗ 4

2016年4月以降のグループ再編への取り組み



※海外子会社を除く

上げるほかに、財務的なメリットもあります。最終損益に対して、非支配株主帰属分（少数株主持分）と連結納税が大きなインパクトを与えるため、100％子会社が増えることによって、プラス部分を余すことなく取り込むことができ、最終損益の押し上げに寄与するからです。

さらにハリウッドチャンネル社とブロードメディア・テクノロジーズ社の拠点を、本社機能がある青山オフィスに集約しました。グループ会社間の人的交流やコミュニケーションの向上、部門や組織を超えた連携の強化など、グループシナジーを創出することで、収益力の改善や企業価値の向上を一層強力に推進してまいります。

Q 中長期の目標と各事業の進展について教えてください

今期は、独自性の高い複数の事業の中で、特に「技術」と「教育」に注力して取り組んでおります。

「技術」は、長年培ってきた大規模配信（CDN）事業とデジタルシネマ配信の実績から培った経験とノウハウを活用し、テレビ局にCM素材をオンラインで届けるサービス（ブロードメディア® CDN CMオンライン）を、2017年の10月に開始しました。

当社は既に大規模な配信網を持っていますので、CMオンラインに向けての追加コストは他社に比べて限定的です。大手広告代理店による当社サービスのご利用が既に開始されており、スタート時点でキー局を含む東京・大阪・名古屋などの21局が対応済で、全国の地上波・BS局へ順次普及させてまいります。「教育」の新規事業については、本格的な展開は来期以降を見込んでおります。

クラウドゲーム事業の進展ですが、今期も提携関係の強化を進めており、「Gクラスタ」のゲームをお楽しみいただける端末やサービスが拡大しています。また、バーチャルリアリティー（VR）、4K（高精細映像）、5G（第5世代移動通信システム）への取り組みに関しましても、2017年11月に開催されたイベントで、凸版印刷様やNTTドコモ様に協力して、「Gクラスタ」技術を活用しながら有効性の検証を行い、高い評価を得ることができました。また、現在開発を進めている次世代ポータルに関しましても早期の提供開始を目指します。さらに新しいゲームの開発や調達も粛々と進めており、クラウドゲーム事業の成長に向けて努力を継続しています。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします

今期は、期初に申し上げたとおり、上場来最高となる売上高140億円と、最終損益の黒字化を達成することを目標としております。上期の業績につきましては、概ね想定通りに進捗しましたが、下期においても気を緩めることなく目標達成に向け鋭意努力していくと共に、グループ経営の効率化による収益力の改善と企業価値向上を一層強力に進め、早い時期に株主還元ができるように努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

通期の業績予想に対する進捗

（単位：百万円）

	2017年度 第2四半期 実績	通期業績予想（4月28日発表）	進捗率
売上高	**6,682**	14,000	48%
営業利益	**67**	250	27%
経常利益	**54**	200	27%
純利益	**24**	50	50%

トピックス

マルチデバイスで遊べる『ファイナルファンタジー® Ⅸ クラウド版』、『ファイナルファンタジー® X/X-2 HD リマスター』がクラウドゲームサービス「Gクラスタ」に登場！

ブロードメディアGC株式会社は、株式会社スクウェア・エニックスの人気RPG『ファイナルファンタジー® Ⅸ クラウド版』と『ファイナルファンタジー® X/X-2 HD リマスター』を配信開始しました。マルチデバイスに対応しており、ご利用の端末とクラウドゲーム機「G-cluster」を接続したテレビやGクラスタ搭載テレビを同期させることで、ゲームの続きをテレビの大画面でもお楽しみいただけます。

アプリ名	ファイナルファンタジー® Ⅸ クラウド版	『ファイナルファンタジー® X/X-2 HD リマスター』
価格(税込)	2,500円	3,400円
対象デバイス	【スマートフォン・タブレット】Google Play、App Store、Amazon Androidアプリストア 【テレビ】クラウドゲームサービス「Gクラスタ」「Gクラスタ for LEONET」、「COCORO GAME」、Apple TV、Amazon Fire TV	
アプリ紹介サイト	http://gcluster.jp/pc/app/sqex/ff9/	http://gcluster.jp/pc/app/sqex/ff10/

記載されている会社名及び商品名/サービス名は、各社の商標または登録商標です。
※ファイナルファンタジーは、日本およびその他の国におけるスクウェア・エニックス・ホールディングスの商標または登録商標です。
© 2000,2017 SQUARE ENIX CO., LTD. All Rights Reserved.　© 2001-2004,2013-2015 SQUARE ENIX CO., LTD. All Rights Reserved. CHARACTER DESIGN: TETSUYA NOMURA

クラウドゲームサービス「Gクラスタ」の提供先が拡大！

ブロードメディアGC株式会社は、クラウドゲームサービス「Gクラスタ」を、11月にシャープ株式会社が提供する「ココロビジョン※1」に対応したAIoT（AIoT=AI×IoT）対応液晶テレビ『AQUOS 4K』向けの「COCORO GAME（ココロゲーム）」に提供を開始。また12月にも株式会社ピクセラのAndroid TV™ OS搭載 4K/HDR対応IPセットトップボックス「PIXELA Smart Box※2」を通して提供を開始しました。

※1「ココロビジョン」とは、AI（人工知能）でユーザーのテレビ視聴傾向から嗜好を学習し、テレビ番組や見逃し配信などの中から今この瞬間に合うユーザー好みのおすすめ番組を見つけ出し、音声で教えてくれるシャープ独自のAIoTクラウドサービスの名称です。
※2「PIXELA Smart Box」とは、Android TV™ OSを搭載し、4K/HDRに対応した高性能IPセットトップボックスです。HDMI端子を搭載したテレビに本製品を接続することで、YouTubeや各種動画・ゲームなど、多彩なアプリケーションやコンテンツを楽しめる最新のSmart TVに進化させることができます。また、話題の音声認識にも対応しており手軽に操作が可能です。

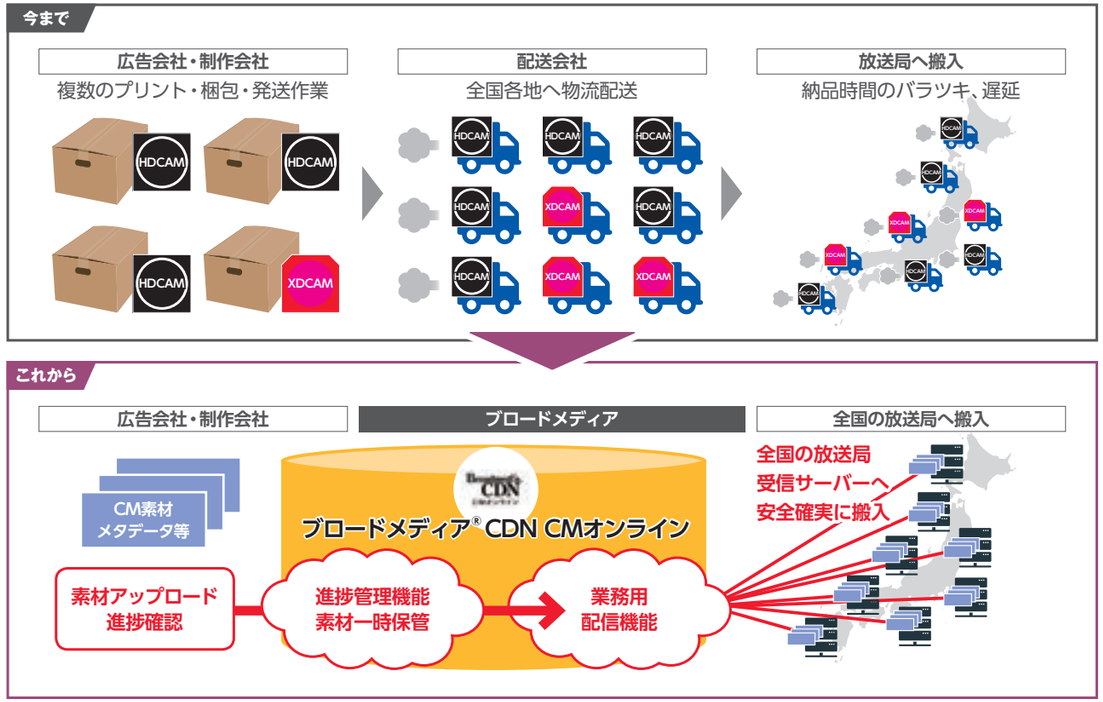
記載されている会社名及び商品名/サービス名は、各社の商標または登録商標です。Androidは、Google Inc.の商標です。
ファイナルファンタジーは、日本およびその他の国におけるスクウェア・エニックス・ホールディングスの商標または登録商標です。© 2009 - 2015 SQUARE ENIX CO., LTD. All Rights Reserved. CHARACTER DESIGN: TETSUYA NOMURA
© 2013 コーエーテクモゲームス All rights reserved.　© SHARP CORPORATION　© Hanaji Games All rights reserved　© 2016 Active Gaming Media Inc. All Rights Reserved.　© Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.

テレビCM素材のオンライン運用サービス「ブロードメディア® CDN CMオンライン」の提供を開始！

2017年10月に、テレビCM素材のオンライン運用サービス「ブロードメディア® CDN CMオンライン」の提供を開始しました。従来はHDCAMやXDCAMといった物理メディアでテレビ局に搬入していたCM素材を、オンラインで搬入することにより、素材搬入にかかる時間を大幅に短縮することができます。さらに、ほぼ全国一律の素材搬入時間を実現し、24時間365日、悪天候や災害による素材不達・遅延がなくなるなど業務効率が向上します。

「ブロードメディア® CDN CMオンライン」は、大規模配信（CDN）事業、およびデジタルシネマ事業で培った豊富な経験とノウハウを活用しています。既に大手広告代理店が当サービスを利用しており、キー局を含む東京・大阪・名古屋などの21局が対応済です。（2017年10月時点）

今後も順次、全国の地上波・BS局へ対応してまいります。



09 セグメント別の業績

コンテンツ

売上高
1,020百万円
（前年同期比6.3%増）

営業利益
△37百万円
（前年同期は△172百万円）

売上高の推移　（単位：百万円）
第2四半期連結累計期間　通期

事業・サービス内容
クラウドゲームサービス／
デジタルメディアサービス／
教育サービス

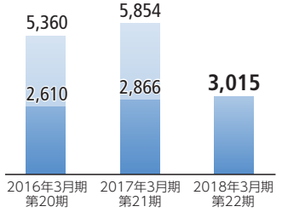
教育サービスは、入学生徒数が増加し増収増益となりました。デジタルメディアサービスは、売上が伸びたことで営業損失が縮小し、クラウドゲーム事業も、コストの抑制等により営業損失は縮小しました。

放　送

売上高
3,015百万円
（前年同期比5.2%増）

営業利益
127百万円
（前年同期は177百万円）

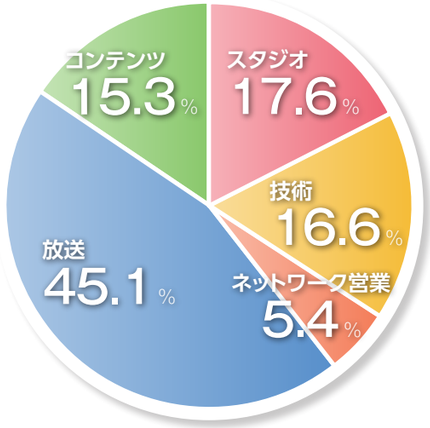
売上高の推移　（単位：百万円）
第2四半期連結累計期間　通期



事業・サービス内容
釣り専門チャンネル「釣りビジョン」

原価率の高い制作収入（放送外収入）が好調に推移し売上は増加しましたが、一部の視聴料収入が減少したことで増収減益となりました。

売上高合計
6,682百万円

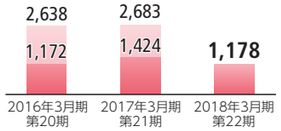


スタジオ

売上高
1,178百万円
（前年同期比17.3%減）

営業利益
12百万円
（前年同期は132百万円）

売上高の推移　（単位：百万円）
第2四半期連結累計期間　通期



事業・サービス内容
制作事業／番組販売事業／映画配給事業

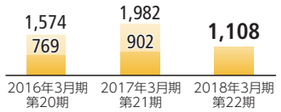
制作事業および番組販売事業の受注が弱含みで推移しました。また、映画配給事業の自社製作・配給作品がなかったことに加え、グループの拠点集約に伴う一時費用が発生したこと等が影響し、減収減益となりました。

技　術

売上高
1,108百万円
（前年同期比22.9%増）

営業利益
188百万円
（前年同期は148百万円）

売上高の推移　（単位：百万円）
第2四半期連結累計期間　通期



事業・サービス内容
CDNサービス／デジタルシネマサービス／
ホスピタリティ・ネットワーク

CDNサービスは顧客数が増加したこと等、堅調に推移しました。また、前期において技術サービスに係る固定資産を減損処理したこと等により、売上原価が減少した結果、増収増益となりました。

ネットワーク営業

売上高
359百万円
（前年同期比7.4%増）

営業利益
△11百万円
（前年同期は6百万円）

売上高の推移　（単位：百万円）
第2四半期連結累計期間　通期

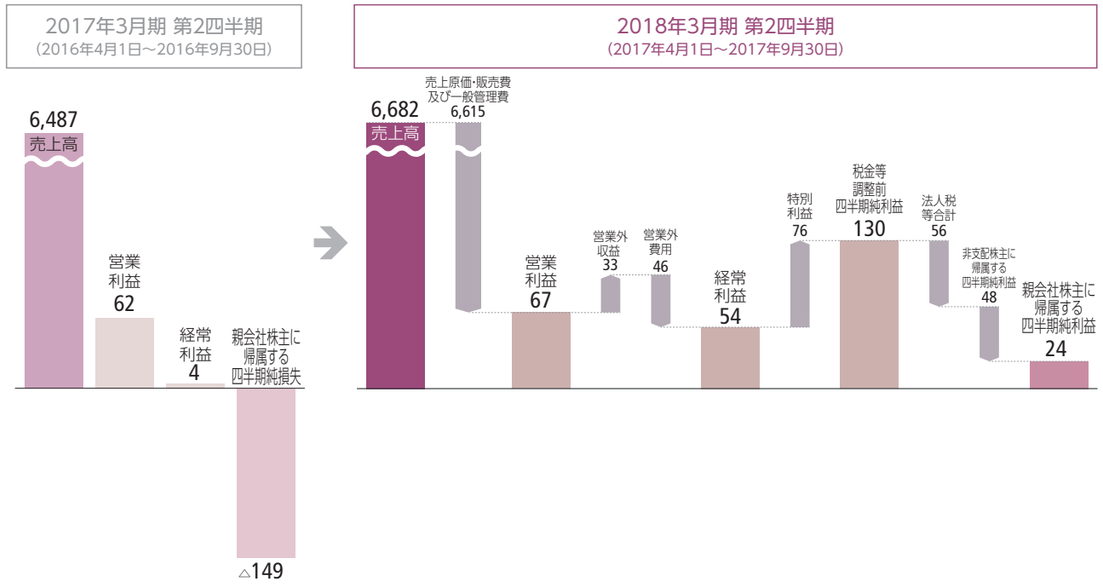
事業・サービス内容
ISPサービス販売／
携帯電話サービスの取り扱い／
ブロードバンド回線販売

「SoftBank Air」の取り扱いを開始し、売上高は増加いたしましたが、ブロードバンド回線販売の原価率が上昇したこと等が影響し増収減益となりました。

四半期連結財務諸表(要約)

連結損益計算書

(単位:百万円)



IRサイト「投資家情報」のご案内

直近の決算情報や株式情報、株主優待などについてもご覧いただけます。

【掲載資料】
決算短信、有価証券報告書、株主通信、株主総会のご案内、電子公告など

http://www.broadmedia.co.jp/ir/

売上高

「スタジオ」は減収となりましたが、他の４つのセグメントが増収となったことで、売上高は増加しました。

営業利益／経常利益

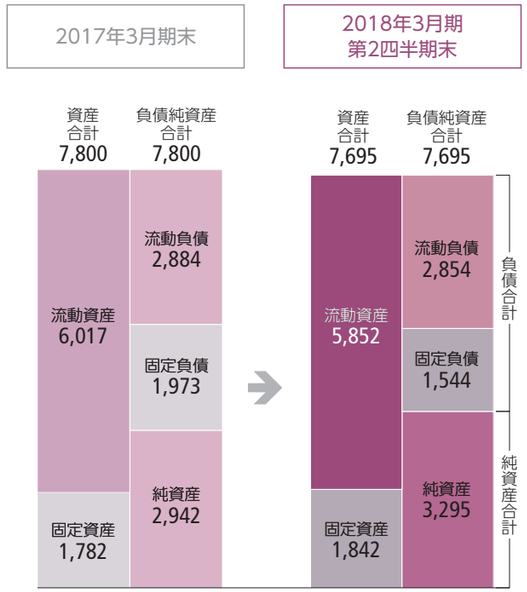
「コンテンツ」の営業損失が改善されました。また、「技術」が堅調だったことで、「放送」「スタジオ」の減益や、グループの移転費用等を吸収した結果、営業利益は前年同期と同水準となりました。経常利益は、営業増益に加え、持分法による投資利益を計上したことが主な要因となり、増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

役員退職慰労引当金戻入額を特別利益に計上しました。また、前期末にルネサンス・アカデミー(株)を完全子会社化したことで、非支配株主に帰属する四半期純利益が減少したことや、連結納税の対象となり税金費用が減少したこと等から、黒字となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)



資産合計

テレビ局向け番組販売の仕入れの増加やBS放送に係る衛星利用料を前払いしたことで、番組勘定や前払費用が増加し、グループの拠点集約にかかる差入保証金が増加しました。一方で、現金及び預金やリース資産が減少したこと等により、前期末と比べ1%減少しました。

負債合計

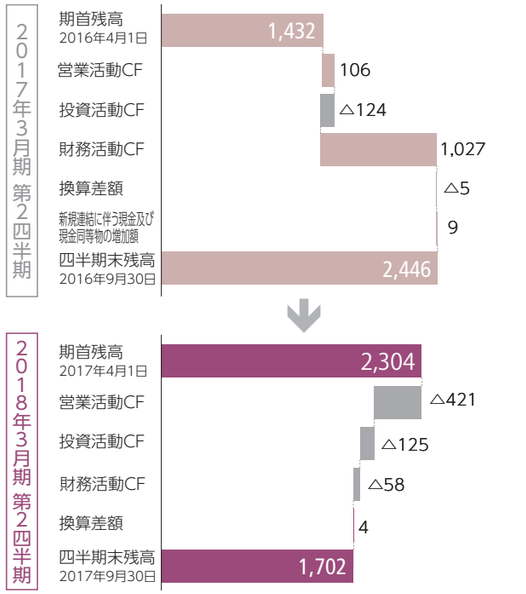
買掛金や短期借入金が増加しましたが、前受金の減少や、役員退職慰労金制度の廃止による引当金の減少、新株予約権の行使による新株予約権付社債の減少等により、前期末に比べ9%減少しました。

純資産合計

親会社株主に帰属する四半期純利益の計上や、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金が増加し、純資産は、前期末に比べ12%増加しました。これにより、自己資本比率は29.4%となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)



営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益を計上しましたが、たな卸資産が増加し、前受金が減少したこと等によりマイナス421百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

固定資産の取得や、グループ会社の拠点を集約することに伴い、敷金の差入による支出があったこと等から、マイナス125百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入による収入があった一方、リース債務の返済があったこと等によりマイナス58百万円となりました。

会社データ

（2017年9月30日現在）

会社情報

社名	ブロードメディア株式会社
英文社名	Broadmedia Corporation
設立	1996年9月5日
資本金	3,107,496千円
従業員	35名（連結398名）
URL	http://www.broadmedia.co.jp/

※ 2017年10月1日から10月24日までに第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の残り全部が行使され、資本金は3,457,496千円となりました。

取締役および監査役

代表取締役社長	橋本　太郎	常勤監査役	古屋　俊一
取締役	嶋村　安高	監査役	北谷　賢司
取締役	久保　利人	監査役	佐藤　淳子
取締役	押尾　英明	監査役	山田　純
取締役（非常勤）	有澤　僚		
取締役（非常勤）	桃井　隆良		
取締役	関　伸彦		

※ 関伸彦は、社外取締役であります。
※ 古屋俊一、北谷賢司、佐藤淳子および山田純は、社外監査役であります。

グループ会社

株式会社釣りビジョン
https://www.fishing-v.jp/

釣り専門チャンネル「釣りビジョン」の制作並びにBS放送、およびスカパー！プレミアムサービス・ケーブルテレビ局等に向けて番組供給事業をしております。

設立：1998年３月　所在地：東京都新宿区

ルネサンス・アカデミー株式会社
http://www.renaissance-academy.co.jp/

スマホ・タブレット、PCを活用してインターネットで学習する通信制高校「ルネサンス高等学校グループ」３校を運営。開校から11年の間に、在籍した生徒数は１万人超。ネット高校のイノベーターとして、さらなる発展を目指し、教育内容を進化させていきます。

設立：2005年10月　所在地：東京都港区

ハリウッドチャンネル株式会社
http://www.hollywood-ch.com/

新作洋画・新作邦画・ドラマを中心とした映像をTV・PC・スマートフォン・タブレット向けに配信しております。また、映画・ドラマを中心としたエンタメニュース配信、広告宣伝業務、公式サイト制作受託を行っております。

設立：2003年４月　所在地：東京都港区

デジタルシネマ倶楽部株式会社
http://www.dcinema.jp/

映画館へデジタル機材の導入を推進する配給・興行向けVPFサービスを提供しております。

設立：2010年４月　所在地：東京都港区

ブロードメディア・スタジオ株式会社
http://www.bmstd.com/

外国映画・海外ドラマのテレビ放映権の販売、日本語版（字幕・吹替）の制作、および外国映画の劇場配給・映画宣伝、DVDビデオの発売・プロモーション等をしております。

設立：2000年８月　所在地：東京都中央区

ブロードメディアGC株式会社
http://www.broadmediagc.co.jp/

クラウドゲームに適した技術システム、コンテンツ、ビジネスモデルを提供しております。

設立：2004年９月　所在地：東京都港区

ブロードメディア・テクノロジーズ株式会社
http://www.bmtech.co.jp/

2017年6月に、グループ会社のCDNソリューションズ株式会社（CDNS）とルーネット・システムズ株式会社は、CDNSを存続会社として吸収合併し、商号変更いたしました。CDNサービス、セキュリティーサービス、ホテル向けインターネットサービスの提供のほか、新しいITサービスの提供を目指してまいります。

設立：2001年4月　所在地：東京都港区

株式データ

（2017年9月30日現在）

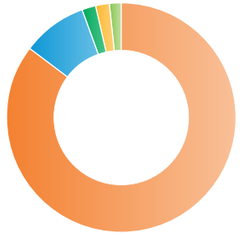
株式の状況

発行可能株式総数	128,000,000株
発行済株式の総数	72,480,657株
株主数	14,560名

※発行済株式の総数には、自己株式（1,157,427株）を含んでおります。
※2017年10月31日現在の発行済株式の総数は、79,147,323株となります。

所有者別株式分布

	持株数（千株）	出資比率（%）
個人その他	61,965	85.49
証券会社	6,598	9.10
外国人	1,496	2.07
その他国内法人	1,391	1.92
金融機関	1,028	1.42



※所有者別株式分布の「個人その他」には、自己株式を含んでおります。

株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQスタンダード
公告方法	電子公告 （当社ホームページに掲載） http://www.broadmedia.co.jp/ ただしやむを得ない事由により電子公告ができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉 2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 （土・日・祝日を除く9：00～17：00）
各種手続お取扱店（住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取扱いたします。
		みずほ信託銀行 本店および全国各支店（※） （※）トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行（※）およびみずほ銀行の本店および全国各支店 （みずほ証券では取次のみとなります） （※）トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払い明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。